

神代種亮(帚葉)  
こうじろたねすけ  
岩倉具視没・1883 =

諸大家の正誤を指摘して"校正の神様"といわれた畸人。明治文学を研究対象として確立した最初の人物。

石見邦津和野で生まれる。

帝国憲法発布1889 = 6歳 :

大本教・・・1892 = 9歳 :

日清戦争始・1894 = 11歳 :

田中正造直訴1901 = 18歳 :

好学心が強く、

松江師範学校を卒業し、郷里の中学校で教師となって、数学なども教えるうち、

日露戦争終・1905 = 22歳 :

韓国併合・・・1910 = 27歳 :

明治天皇没・1912 = 29歳 : 教師を辞めて上京し、海軍大学校図書館に勤務すると、その余暇の全てを、図書館の蔵書を利用して独学、没頭した明治文学を研究対象として確立した最初の人物になって行く。博学多識になるとともに、文字に精通するようになって、頼まれもしないのに、誤字を除ける校正業を落葉掃きで譬喩した"帚葉"を号し、諸大家の著書における正誤を厳密に指摘して各著者に報告するうち、出版関係者からも認められて、種々の全集や諸作家の小説集などの校正を懇請されるようになり、責任校正で出版された本にはほとんど誤りがなく、文筆関係者から"校正の神様"と呼ばれるようになり、登場間もない芥川龍之介からは、必ず自作自著の校正を委嘱されたのをはじめ、坪内逍遙、永井荷風、佐藤春夫、姉崎正治らから尊重されるに至り、

八甲田条約・1919 = 36歳 :

原敬首相暗殺1921 = 38歳 :

護憲三派圧勝1924 = 41歳 : {東京朝日新聞}の"読者の課題"欄に、'誰の本でも片っ端から謝りを正して反省させる'"校正の神様"として出題されると、書物好きな記者が詳しく返答した記事が掲載され、一般にも知られるようになった。この記事には芥川龍之介による「七松庵主人読書之図」が掲載されているが、自ら七松庵主人とも呼んだ神様自身がこの記事についての正誤を発表、この年、吉野作造を中心に結成された{明治文化研究会}に参加、

治安維持法・1925 = 42歳 : 創刊された機関誌の(校正はもちろぬ)編集や、

円本時代始・1926 = 43歳 : 退職。

金融恐慌・・・1927 = 44歳 : この年刊行が開始された「明治文化全集」は、

共産党事件・1928 = 45歳 :

海軍軍縮条約1930 = 47歳 : ついに自ら{日本校正協会}を設立・主宰し、雑誌{校正往来}を発行。{東京日日新聞}には'憂鬱なる校正者の生活に一脈の明るみとユーモアを与えるのが発刊の趣旨で、まっ先に賛成した坪内老博士が題名を書いた'とあり、第一冊には、様々な筆名で、校正に関わる記事を書き、

満州事変・・・1931 = 48歳 : 第二冊には、諸大家によるユニークで興趣豊かな文が寄稿されたが、惜しくも廃刊になってしまう。

五一五事件・1932 = 49歳 : 「明治文化全集」全24巻完結まで編纂発行に尽力するが、

芥川直木賞始1935 = 52歳 : 東京千駄木の\_自宅で突然倒れ、そのまま没した。俗人を近づけなかった永井荷風が、「? 東綺譚」の"作後賢言(いわゆるあとがき)"で、'中折帽に和服姿で毎晩のように銀座に現れて、荷風らと待ち合わせ、飽きることなく人情風俗を語り合い、最終電車をまつ間の停車場でも誰彼かまわず話、最終電車を逃すもかまわず、悠然と歩いて帰る'ような人物神代帚葉翁を、多大の敬意をもってその生涯を回想していることから、尋常一様の凡人でなかったことが分かるのである。